

立法といふ事ぢや」と言つただけでは、宇宙的の道徳は出て参りませぬ。モウ少しその意味を開發して御研究にならぬといふと、折角の勅語もその趣旨が開發せられぬ次第でありはしないかと思ひます。

茲に宇宙的の方面を一玄遠、深厚」といふ事に依つて解釋するに就ては、少くとも二點の注意を要する。一つは我が皇祖皇宗を宗教の神とするに於て濫りに迷信を鼓吹し、俗神道を打立て、天理教の如く、大本教の如く、低級なるものを我が皇祖皇宗の名に於て亂用することは、國家として、嚴禁して宜しいこととあります。國民一般が懺悔心を同じくして尊敬しなければならぬものを、あのやうな迷信團體の方に於て、こつちが皇道の大本ぢやとか、本家ぢやとか、聞いて呆れるやうな事を言ふのであります。是れは實に甚だしいことで、俗神道の行爲は我が國體を潰す所の罪人でありませぬ。それからモウ一つは宗教は自由であるから、是れは教育が干渉してもいかぬ、政治が干渉してもいかぬ、日本の神様といふものは全然宗教に關係がない、國を

開かれた御先祖といふことだけで、別にそこに行つてお禱りをするのではない、頭を下げるのも帽子を取つてこの邊まで下げるのである、何度の角度に下げるのであるといふやうな事を言つて、純乎として純なる渴仰の精神を我が敬神の觀念より除き去らんとするが如き事を、言譯として言つて居るのである。それは耶穌教の人から突込まれる時の答辭として、日本の神様は宗教でないといつて通じて居るのである。大本教のやうな迷信に行くのも宜しくないが、日本の神様に對し宗教的氣分を捧げるのを、之を僞つて言譯せんならぬ役人も、是れ亦氣の毒の至りと謂はなければならぬ。モット正々堂々、日本の皇祖皇宗に對して、宗教的氣分があるけれども、是は一般宗教とは違ふ、大體宗教的氣分とは一切の道徳の生粹なる所に於ては凡てに存するのである。親孝行と雖も、親が有難いといふ感激精神の極まる所は宗教的なるものである。夫婦の愛情と雖も、朋友の信義と雖も、軍人が戰場に出でて忠節の心に生命を捨る場合にも、その最後の純忠至誠のそこは宗教の氣分に入つて居るのである。道徳と宗教